

野菜の需給・価格動向レポート(平成23年10月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格動向			10月の価格動向		生育及び価格の10月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額	
		中旬	下旬			
キャベツ	74.19	78	94	74.19	100	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬産は、病害等の発生もなく順調な出荷となっているが、出荷の終盤を迎え、下旬にかけて徐々に減少する見込み。千葉産は、定植時期の少雨による作業の遅れがみられたが現在は遅れが回復し、下旬から本格的な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、やや高めに推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	93.59	83	98	93.59	108	
ねぎ (関東：白ねぎ、 関西：青ねぎ)	273.33	305	383	218.22	262	<ul style="list-style-type: none"> ・青森産は、上旬の降雨と稲刈り等により、収穫作業が遅れていたが、下旬には出荷量が増加しピークを迎える見込み。秋田産は、9月の台風と低温の影響で1~2週間生育の遅れが生じているが、下旬にかけて出荷が増える見込み。ただし、細ものが多いことから出荷量の伸び悩みがみられる。 ・出荷量の増加が見込まれることから、やや高めに推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	512.77	361	420	444.77	442	
はくさい	82.17	108	114	54.1	162	<ul style="list-style-type: none"> ・長野産は、台風以降の好天により生育、出荷の回復はみられるが、冷え込みの影響により平年より少なめの出荷となっている。出荷は今後も少なめで推移し、11月上旬には終盤を迎える。茨城産の生育は順調で下旬にかけて増加し、平年並みの出荷となる見込み。 ・長野産の出荷量が少なめで推移していることから、価格は平年より高めに推移する見込み。
	98.58	114	114	69.44	170	
ほうれんそう	583.95	752	664	350.1	850	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬産は、天候の回復とともに順調な生育となり、出荷量が増加し平年並みの出荷となる見込み。栃木産も、生育が回復し、平年並みの出荷となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、高めに推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	670.86	915	714	419.76	874	
レタス	166.6	290	189	166.6	203	<ul style="list-style-type: none"> ・長野産は、一時よりは出荷量が回復したが、冷え込みの影響で今後は少なめの出荷となり、下旬には出荷が終了する見込み。茨城産は、台風15号の影響で生育が遅れ、平年よりやや少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年よりやや高めに推移する見込み。
	160.6	309	199	160.6	228	
たまねぎ	76.15	89	96	76.15	100	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、長雨や台風により収穫作業が遅れており、月末まで収穫作業が続く見込み。今後は貯蔵腐敗等が懸念され、出荷量は平年より少なめの見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年より高めに推移する見込み。
	76.15	90	98	76.15	108	
きゅうり	210.69	271	386	262.75	339	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉産は、台風等の降雨の影響で生育が遅れ少なめの出荷となっていたが、生育が回復し順調な出荷となる見込み。群馬産は、生育が回復し徐々に出荷量が増加しているものの、平年には届かない見込み。 ・出荷量の回復が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	221.71	315	405	284.72	369	
トマト	218.58	337	410	315.83	704	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉産、茨城産ともに、日照不足と気温低下の影響で少なめの出荷となっており、10月いっぱいには少なめの出荷の見込み。 ・出荷量が少なく見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
	271.33	389	449	337.88	703	
なす	209.55	278	358	316.84	470	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木産は、台風の影響により生長過程で傷が広がり実が割れるスレ果が発生するとともに台風後の気温の低下で生育が遅れ出荷量が減少している。今後も少なめの出荷の見込み。高知産は、順調な生育となり、下旬にかけて出荷量が増加する見込み。 ・高知産の出荷量の増加が見込まれることから、高めに推移している価格は平年並みに落ち着いてくる見込み。 (※トピック欄参照)
	221.72	304	336	277.06	454	
ピーマン	263.58	273	232	263.58	354	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城産は、9月中旬以降の低温の影響で肥大不足となり少なめの出荷量となっているが、下旬からは徐々に増加する見込み。岩手産は、平年並みの出荷ではあるが、出荷の終盤を迎え、下旬にかけて減少する見込み。 ・茨城産の出荷量の増加が見込まれることから、高めに推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	282.16	314	327	282.16	429	
だいこん	99.58	113	127	64.33	153	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、台風15号の影響で痛みや腐敗が発生し少なめの出荷となっており、月末には出荷の終盤を迎える見込み。青森産は、台風の影響もなく順調な出荷の見込み。千葉産も、順調な生育で、下旬にかけて増加する見込み。 ・出荷量の増加が見込まれることから、高めに推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	111.54	123	133	76.48	159	
にんじん	129.56	116	120	129.56	147	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、台風15号の影響により痛みや腐敗が発生し、少なめの出荷量となっている。今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年より高めに推移する見込み。
	129.59	121	118	129.59	149	

種類	9月の価格動向				10月の価格動向		生育及び価格の10月の見通し
	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格		(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		上旬		
	中旬	下旬	中旬	下旬			
いも	242.66	276	264	200.88	257	・入荷見込量：1,442t (105) ・主産地：埼玉(32)、千葉(27)、輸入(7)、栃木(6)	・千葉産は、夏場の少雨により肥大不足で小玉傾向だったが、9月の降雨により肥大が進み、平年並みの出荷となる見込み。埼玉産は、順調な生育、出荷となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに近づき見込み。
	220.11	238	259	207.2	259	・入荷見込量：272t ・主産地：愛媛(32)、宮崎(49)	
ばれいしょ	96.77	120	119	88.17	123	・入荷見込量：7,358t (102) ・主産地：北海道(99)	・北海道産は、生育初期の低温による小玉傾向に加え、最近の長雨とその後の高温により品質が低下。今後は冠水の影響による貯蔵腐敗等が懸念される。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
	96.77	108	108	88.17	113	・入荷見込量：4,100t (99) ・主産地：北海道(99)	

1) 平均価格は、過去9年間又は6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
 2) 旬別平均販売価格の背景なしは、保証基準額を上回るもの。背景ありは、下回るもの(消費税は除く。)
 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもの近畿は前年実績。
 5) 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入量及び金額 (1人当たりの購入量、金額)							
	過去5か年平均		平成22年		平成23年			
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	前年比	金額(円)	前年比
1月	4,189	1,529	4,240	1,551	4,310	102	1,573	101
2月	4,391	1,544	4,461	1,574	4,267	96	1,629	103
3月	4,767	1,695	4,970	1,768	4,867	98	1,788	101
4月	4,732	1,808	4,518	1,884	4,796	106	1,789	95
5月	5,094	1,902	4,925	1,965	5,171	105	1,820	93
6月	5,033	1,880	5,026	1,907	4,904	98	1,857	97
7月	4,438	1,683	4,264	1,697	4,362	102	1,759	104
8月	4,272	1,732	4,241	1,733	4,392	104	1,717	99
9月	4,868	1,806	4,606	1,818		0		0
10月	5,314	1,849	4,994	1,959		0		0
11月	4,997	1,614	4,678	1,774		0		0
12月	5,212	1,817	5,177	1,887		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

	主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位：円/kg)					
	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成23年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成23年	5か年比(%)
1月	189	186	98	618	502	81
2月	173	228	132	496	635	128
3月	181	206	114	455	435	96
4月	250	195	78	464	348	75
5月	185	127	69	399	277	69
6月	159	106	67	360	306	85
7月	154	174	113	320	306	96
8月	170	123	72	493	351	71
9月	159	140	88	483	1,034	214
10月	158		0	474		0
11月	155		0	359		0
12月	146		0	442		0

資料：総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

区分	野菜等の輸入数量の推移 (単位：トン、%)					
	平成21年		平成22年		平成23年1~8月	
	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比		
生鮮野菜	615,271	102	820,687	133	624,453	122
加工野菜	1,569,627	95	1,677,840	107	1,194,605	107
野菜輸入量合計	2,184,898	97	2,498,527	114	1,819,059	112
うち中国産野菜合計	1,098,415	95	1,284,449	117	916,073	114
中国産シェア	50		51		50	

資料：ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

品目	輸入先	主な野菜の輸入動向 (単位：トン、%)		
		(A)2010.9	(B)2011.9	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	24,118
	中国	23,571	21,082	89
	米国	504	1,649	327
にんじん	合計	10,758	6,935	64
	中国	10,424	6,788	65
	オーストラリア	300	63	21
ねぎ	合計	4,378	4,186	96
	中国	4,376	4,184	96

資料：農林水産省「植物防疫統計」。 (2011.9)は、9月末日までの速報値である。

4 トピック ーなすの価格動向についてー

なすは、9月下旬より価格が高騰しはじめ、今も高い状態が続いている。これは、この時期の主産地である栃木産(露地もの)が①9月上旬の台風12号と中旬から下旬の台風15号の影響により、実が割れるスレ果等が発生し正産率が減少したこと、②台風15号の通過とともに気温が低下し生育が遅れが発生していること等により、出荷量が減少していることによる。今後は、後続産地である高知産が、台風の影響もなく生育が順調であることから、下旬にかけて出荷量の増加が見込まれ、高めに推移している価格は、平年並みに落ち着いていくものと思われる。

なすの入荷量と価格の推移 (9月上旬~10月上旬)

資料：青果物情報センター

産地の気象(真岡)と栃木産の入荷量の推移

資料：ベジ探 (原資料) 気象庁「統計データ」、農水省「青果物日別取扱高統計結果」